

平成29年度 保健福祉常任委員会行政視察報告について

委員長	新原	善信
副委員長	城山	雅朗
委員	百瀬	光子
委員	山田	忠
委員	成富	一典
委員	田中	雅光

次の通り報告します。

【視察日時】 平成29年10月24日
午後1時30分～午後3時30分

【視察先】 滋賀県湖南市
面積：70.40 km² 人口：54,964人（H29.10.1現在）

【視察内容】 在宅医療・介護連携について

1 湖南市の資源

- 湖南市の高齢化率 28.0%（滋賀県 27.5%）
- 25の病院・医院、13 歯科医院、17 調剤薬局
- 場所別死亡数 自宅での死亡は 11.8% ほとんどが病院・診療所で死亡

2 地域の医療・福祉資源の把握と活用について

- 在宅支援診療所 往診については、25 中 16 診療所が応相談としている。
訪問診療については、25 中 11 診療所が応相談としている。
訪問診療歯科診療所 往診については、13 中 8 診療所が応相談としている。
- 訪問診療医師の数 11 名
- 訪問看護ステーション 8 事業所

3 在宅医療を支える環境整備について

- こなん在宅医療安心ネットワーク
二月に一度、17時から18時半まで情報交換や研修を実施。
登録患者（平成28年度4件）訪問診療（往診）を行う。
急変時の病院との連携も整備。
医師がネットワークをつくり主治医（かかりつけ医）不在時の代診も行う。

(平成 28 年度 0 件)

協力医療機関 11 診療所

- 情報交換会（訪問看護ステーション） 年 4 回
- 〃 （薬局薬剤師） 年 4 回
- 〃 （ケアマネージャー、介護職種等） 年 1 回
- 「私の介護・医療安心カード」作成配布

4 医療と介護の連携拠点

- 包括支援センター内に連携窓口を設置→コーディネーターを医師会より派遣
平成 28 年度相談・対応件数 207 件

5 在宅医療・介護サービス等の情報の共有支援について

- 淡海あさがおネット

6 多職種連携のための研修について

- 湖南医療・介護・福祉連携懇談会 平成 25 年～ 3 ヶ月に 1 回実施
毎回約 40 名参加 広がりがないのでテーマ別研修にするべきか
- 訪問介護事業所（8 事業所）職員向け研修
- うつ・認知症・在宅医療等懇話会（2 次医療圏）

7 二次医療圏内における連携の推進について

- 甲賀圏域地域連携検討会

8 在宅見取りに向けた啓発について

- 甲賀圏域在宅医療推進フォーラムの開催 年 1 回

◇所感（視察を終えて）

湖南省は国道 1 号と JR 草津線、名神高速道路という交通利便性を活かした県下有数の工業団地が立地し、また、京阪神のベッドタウンとして住宅開発が進んでいる。現在の高齢化率は 28%と小郡市とほとんど変わらない。市内には 25 の病院・医院、13 歯科医院、17 調剤薬局がある。急性期医療はおおむね市内でなされているが、回復期慢性期になると近隣の自治体の医療機関・介護施設等に移ることも多い。在宅での死亡率は 11.8%と滋賀県全体の 14.1%より低くなっている。

地域包括ケアシステムの構築に当たっては、平成 27 年度に県の医師会の予算で包括支援センターにコーディネーター 1 名が配置され、連携の窓口となり環境整備を行ってきた。具体的には平成 27 年 12 月に立ち上げた「こなん在宅医療あんしんネ

ットワーク」がある。このネットワーク会議は登録患者の情報を共有し、主治医不在時の訪問診療の代診医体制づくりを行っている。11 診療所が参加し二月に一度 17 時から 18 時半まで情報交換会を行ってきた。この中で、徐々に医師どうしや行政のネットワークができつつある。また、中心となって活動する医師も出てきた。在宅医療を行っていく上で重要なのは、安心できる訪問診療、訪問看護、訪問介護の体制が整っていることである。それぞれの分野の従事者が対象患者の情報をきめ細かに共有し、連携協力していくことで、患者・家族は安心して在宅生活を送ることができる。その体制づくりに奮闘している職員の姿を感じることができた。